

群馬合研に参加して

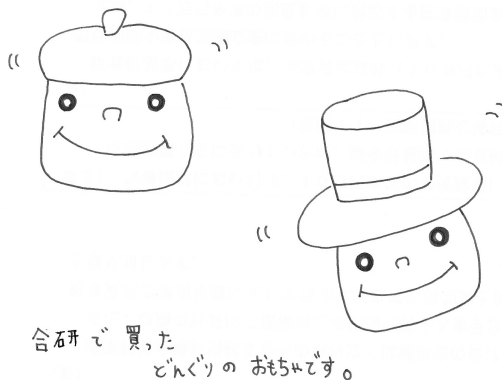
櫛桁微季

全国保育団体合同研究集会の略称で“合研”。今年は群馬でありました。

初めて全国規模の大きい集会に参加して、とにかく人の多さにびっくりしました。また、保育者だけでなく、保護者や学生、学者など、様々な立場の人が参加していた事にも驚きました。会場の壁には、子どもに達の手作りだと思われるこいのぼりや、刺繍のされてあ民族衣装が飾ってあったりもして、「子どもにもこんなものが作れるんだ」と、改めて子どもを持つ力を感じました。子ども達の元



気のいい歌声から始まったオープニングでは、岩手県の伝統芸能である虎舞など、活気あるプログラムも多く、とても楽しく見させてもらいました。発表の内容は、やはり今回の東北地震に関係するものが多く、震災のキズの深さを改めて思い知らされました。実際に地震が起きたときの状況をリアルに表現した内容で、発表者の方が涙をこらえながらお話をされていたのが、とても印象的でした。以前から言われている事ですが、今回の震災で、保育中に亡くなった子どもは誰もいないということを知り、保育のプロの力を感じました。地震発生から5カ月が経ち、毎日流れていたニュースも、今ではほとんど目にすることはなくなりました。世間の意識からは薄れつつあることでも、まだまだ復興までの道は長いのだと感じ、私達にできることを探っていかなければならないと思いました。



合研で買った
どんぐりのおもちです。

上の写真は、岩手の伝統
芸能・虎舞。頭は牛乳パ
ックで作られていまし
た。1つ1つ手づくりで、
顔の表情も違っていまし
た。

二日目は0歳児の保育という分科会に参加しました。最初に発表をしていた人が、私と同じ年、社会人1年目で0歳児クラスを担当し、その1年から学んだことを議題にしたのに惹かれてこの分科会を選んだのですが、「私もそう思ったな」とか「分かる分かる」と思うことがとても多くて、共感しながら聞くことができました。他の提案も、新しい見方を与えてくれたりして、あっという間の午前中でした。午後からのトークディスカッションでは、互いの園の事について発表し合ったり、提案を聞いての質問をしたりしました。やはり0歳児の保育の分科会ということもあり、離乳食やミルクが議題にあがる事も多く、その方針などは本当に園によって様々でした。歩行が安定するまでは1人ずつ抱いて食べさせているという園もあれば、コンビラックに座って、友だちや保育士とテーブルを囲って食べているという園もありました。どれが正しい！というのではなく、園として・クラスとして、その子たちにどういう方針を持っているか、何を大切にしているかという事の違うので、こういう考え方もあるのかと、考え方が広がったなと思いました。また質問のところで、手のひらきが悪い子にベビーマッサージを実行しているという園に、「うちのクラスにも手のひらのひらきが悪い子がいる。戸板上りを運動会でしたいのだが、どのくらい前からマッサージをすれば出来るようになるか？」と質問している人がいて、提案者の人は「運動会の種目を目指して訓練させているのではなく、子どもの身体の都合の悪い部分を取り除いてあげたいという思いから行っているもの。そういう考えではないので」と返答をしていました。実際去年の今頃の自分が、質問した人と同じ立場だったら、質問していた人と同じような考え方しかできなかつたと思います。去年1年で、ゆきんこから色んな事を教えてもらって、今の考え方が出来るようになったと思いますし、たった1年であっても、働く環境はとても大事なもので、環境によって人は育っていくんだなと実感しました。

最終日には、湯浅誠氏を招いての記念講演が行われました。少子化の事や子育てをしにくい社会環境などの話が出たのですが、難しい話も分かりやすく、砕いて話してくださっていたので、とても聞き易かったです。実際このまま少子化が進めば、子どもたちはどんどん減っていき、保育園の元気も無くなっていってしまうけど、子育てがしやすい社会環境が揃わない現状もあって…というスパイラルの中で、どうすればよい環境が整っていくのか、自分だけが言っていたって意味がないと思わず、そうなるようにアピールしていくことに尽きるのかなと思いました。初めての合研で、自分と似ている人、そうじゃない人、その意見と出会い、これからの肥やしになりました。とても勉強になりました。ありがとうございました。



し〜っし〜かに。④